

宇宙と繋がる放課後に

宇宙旅行に行ってみたいな
そしたらこの重さもとれるかな
重力に逆らって生きたい
あの屋上の花のように

空になったソーダ缶
微かに残る痺れが
なぜか殺人レベルの痛みを生み出した

仮に僕が生きている
理由があると言うなら
だれかとだれかのアソビの延長戦なんたる

子どもの頃になぜか好きだった
宇宙の図鑑
大人になった今になってやっと
好きだった理由、わかってしまったんだ。

そのときみがとびおりた。
飛べることを思い出したらしい
その時確かに重力なんて嘘な気がした。
その時君が微笑んだ。
まだ「飛べない」僕を見つめてた。
その時確かにあの図鑑を思い出していた。

チャイムの音が響いて
花も傾きはじめた
なにもなかったかのように過ぎていく

仮に君が生きていた
世界があったとしても
すぐに重力に潰されてしまう

「宇宙旅行に行ってみたいな」
そしたらこの重さもとれるかな
重力に逆らって生きたい」

その時君が微笑んだ。
まだ「飛べない」僕を見つめてた
君の顔はもう無重力を手に入れていた
その時君が手を伸ばす
飛びたい僕の片道切符
君が持っていたんだね。

その時僕はとびおりた
飛べることをやっと思い出して
その時確かに重力なんて嘘な気がした
その時僕は微笑んだ
あの日の君と手を握って
その時確かに背負ってたリュックを下ろすことが出来たんだ

もう放課後だしね。